

NISSHA 株式会社
「2026 年 12 月期第 2 四半期 WEB 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2026 年 9 月 30 日開催)

Q1. 通期営業利益予想を下方修正したが、セグメント別の修正要因を教えてください。

A1. 産業資材では、モビリティ向け外装機能部品の生産立ち上げに伴う品質・生産性に関するコストが、上期から下期にかけて利益を押し下げる要因となっている。デバイスでは、USM Healthcare に係るのれんの減損損失に加え、タブレット向け需要がサプライチェーンの生産調整により前回予想を下回る見通しである。メディカルは、医療機器 CDMO を中心に需要が堅調に推移し、前回予想を上回る見通しである。

Q2. 産業資材のモビリティ向け外装機能部品の生産コスト増は、いつ頃改善する見通しか。

A2. 年内に改善の目処をつける方針である。外装機能部品の需要は 2027 年に倍増する見通しであり、生産の安定化を進め、需要の拡大を業績につなげていく。

Q3. 年間配当予想を 1 株当たり 50 円に据え置いたが、この水準は維持されと考えてよいのか。

A3. 業績の上下にかかわらず安定配当を継続する方針であり、年間配当予想は 1 株当たり 50 円を据え置いている。

Q4. USM Healthcare の買収価格は 59 億円だが、のれんの減損損失が 68 億円となった。差額は同社の債務超過によるものか。

A4. そのとおりである。USM Healthcare の債務超過に対する当社持分 60%相当の影響を反映した結果、減損損失は買収価格を上回る 68 億円となった。

Q5. USM Healthcare に関する損失は、いつ頃、どの程度回収できる見込みか。

- A5. 回収額は現時点で申し上げられない。保険、損害賠償請求、株式売却代金の回収など、あらゆる手段を通じて可能な限り損失の回収に努める。株式売却代金の額は確定しているが、支払いは複数回に分かれる。回収には一定の時間を要し、来期以降、1～2 年程度を見込んでいる。
- Q6. 買収前のデューディリジェンスで、不適切な会計処理を見つけることはできなかったのか。
- A6. デューディリジェンスで得た情報の精査に加え、当社独自の観点から売主への質問や確認を重ねた。しかし、不適切な取引は複数の関係者が関わる巧妙な方法で行われており、買収前に把握することはできなかった。なお、買収直後の決算作業の中で当社自らが発見し、速やかに調査と対応を進めた。
- Q7. 産業資材の下方修正には、上期と下期の両方の品質関連費用が含まれているのか。また、修正後の見通しの範囲内に収まる見込みか。
- A7. 上期の実績と下期の見通しの両方を反映している。直近数週間で改善に転じており、修正後の見通しの範囲内に収まると見ている。
- Q8. メディカルについて、上期は上振れしたが、通期予想の上振れ幅は上期と同程度である。下期は保守的に見ているのか。
- A8. 医療機器 CDMO の需要は堅調である。一方、国内の医薬品 CDMO は、業界の流通在庫の影響などで当初計画をやや下回る見通しであり、これを反映している。
- Q9. 固定資産売却益 3.5 億円は、業績予想に含まれていたか。
- A9. 売却時期が未定であったため、織り込んでいなかった。